

情報社会を考える動画作成実習 実践報告

2019年8月11日 @和歌山大学

千葉県

二松学舎大学附属柏中学校・高等学校

阿部 百合

本校紹介

国語の二松学舎

夏目漱石

論語

渋沢栄一

83%

文系

17%

理系

本校 & 取り組み紹介

そんなわけで

- 以下すべて高1の「社会と情報」での取り組み
- 2016: PBLによる種々のソフトウェア開発(音ゲー、アニメーション、ゲーム、ARアプリ、操作の自動化他)、アンプラグドAD変換...
- 2017: パケット通信体験、API活用(HTML)
- 2018: 情報社会を考えるための動画作成、
問題解決のための統計学習(Python使用)
- 2019: 教科間連携(数学と統計学習)...

「情報」が すべての高校生に必修の理由

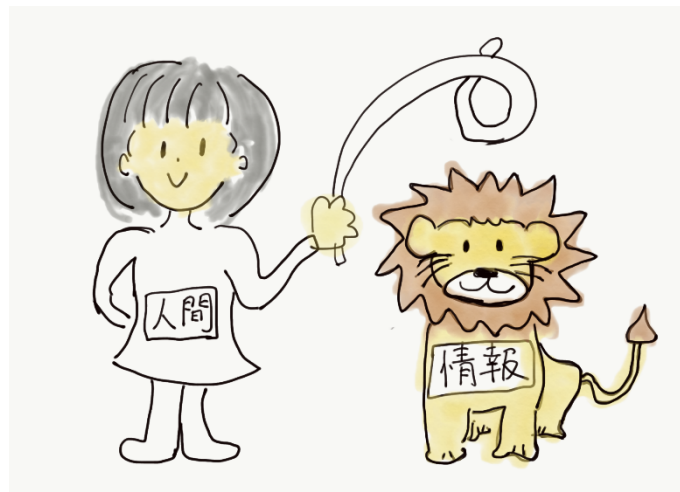
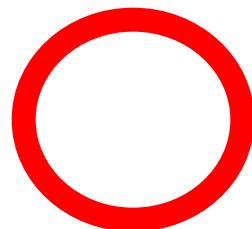
答えのない問題に対応する「生きる力」の重要性、必要性
(現行、次の学習指導要領)

ICT技術を「使いこなす立場」

ICT技術に



「使われる立場」



少なくとも、ICT技術に人生の
舵をとられない人となる！！

普通科の「情報」がすべきこと

- ・システム側、作り手側、発信者側を垣間見せる、体験させる

→与えられている情報や使っているソフトに興味、
疑問を持つきっかけ

- ・「おもしろい」「楽しい」「もっとやりたい」を提供
→生徒の学ぶ意欲、自ら学ぶ力を引き出す

生徒が自発的に疑問を持ち、
考えるようになることが大切

生徒が自然に

調べる

学ぶ

考える



しかけ

と

生徒の興味関心を利用

おもしろい

今回、しかけとして
動画作成実習を使って
みました

すごい！と
言われたい

生徒は
自然と一生懸命

動画作成実習をしかけにした理由

- ① 動画への生徒の興味関心が高い
- ② 要素の多い表現手段である

調べる

学ぶ

考える

生徒に動画作成の目的として伝えたこと

- ① 情報社会の注意すべき点を互いに考えよう
- ② 発信者の視点を持とう
- ③ 見る人に適切な表現をしよう

調べる

学ぶ

考える

動画テーマ

2018年

- ① ICTによるコミュニケーションの失敗例
 - ② 10年後の私たちの社会
- ①、②のどちらか好きなテーマ

2019年

10種（情報格差、ネット依存...）の用語解説
班ごとに異なる用語を担当

しかけ

しかけとしての動画作成実習

- ・ 「どう」伝えるか
- ➡ 伝えたい内容がはっきりしたら、伝え方(表現)を考える必要がある

① 何で表現するのが効果的か
(道具を何するか、**動画**、音声、画像、文章
(表現メディア))

② 表現の工夫と誤解のない表現
(絵コンテ活用、字幕と音声効果の体験
(メディアリテラシーの授業で紹介)
生徒たち自身による工夫と共通認識の利用)

利用

動画作成実習と学習単元

学習単元	実習のねらい	実習の結果
情報モラル	当事者意識の醸成	十分すぎ ▲
	用語が記憶に残りやすくなる	効果あり ◎
動画のしくみ	科学的理解 (レイヤー、色、サイズ、 拡張子)	担当者は 効果あり ○
画像	科学的理解 (色、サイズ、拡張子)	担当者は 効果あり ○
動画作成	ICT 活用能力の向上	必要性 ▲
情報表現	発信者の意図を考える 誤解のない表現を意識する	不十分 ▲

動画作成実習と学習単元

学習単元	実習のねらい	実習の結果
情報モ	当該職の配	十分すぎ▲ 効果あり◎
動画		効果あり◎
画像		効果あり◎
動画作成	ICT活用能力の向上	必要性▲
情報表現	発信者の意図を考える 誤解のない表現を意識する	不十分▲

動画作成実習
不要?!

「つらい」「重い」「技能習得」
動画作成実習
不要？！



「楽しさ」
「表現」する工夫を「考える」
動画作成実習

2018年
生徒作品例1 (LINE失敗例)

2019年
生徒作品例2 (スマホとマナー)

おもしろい

しかけに
動画作成実習

ありますか？なしですか？

すごい！と
言われたたい

生徒は
自然と一生懸命

ご清聴ありがとうございました

情報社会を考える動画作成実習 実践報告

2019年8月11日 @和歌山大学

千葉県

二松学舎大学附属柏中学校・高等学校

阿部 百合

目次

- 実習実施の経緯と実践のねらい
- 実習の目的
- 実施概要
 - 実施環境
 - 事前準備
 - 授業展開
- 課題と今後の展望

実習実施の経緯と実践のねらい

生徒

- ・ 動画だと見る、作りたい
- ・ 用語解説
印象に残らない、聞いてない、忘れる

教師

- ・ 情報社会で注意してほしいこと(スマホの使い方やLINEとの付き合い方)たくさんある、言っても聞かない
- ・ 用語解説一方的



どちらからしても不幸

実習実施の経緯と実践のねらい

生徒	教師
・ 動画がし見 作り 印 聞いて 忘れる	・ 注意 ホ 、 ない 用語解説一方的

両方の望みを組み合わせて
叶えてしまおう！

どちらからしても不幸

実習の目的

目的②

動画の内容として情報社会を考える
考えたことを動画で伝える

目的① 動画のしくみ理解と動画作成技能の習得



実施概要

実施環境

生徒の実態

- ・1クラス43人～44人
- ・男：女＝1：1

実施概要

実施環境

作業工程	使用ハード	使用ソフト
撮影	iPad*	内蔵カメラ
素材収集・ 素材作成	PC iPad	フリーイラスト・音源サイト もじまる** Adobe Sketch**
編集作業	PC	AviUtl**
発表資料	PC、iPad	Google Slide

* 1人1台3年間貸与

** 配布資料参照

実施概要

事前準備

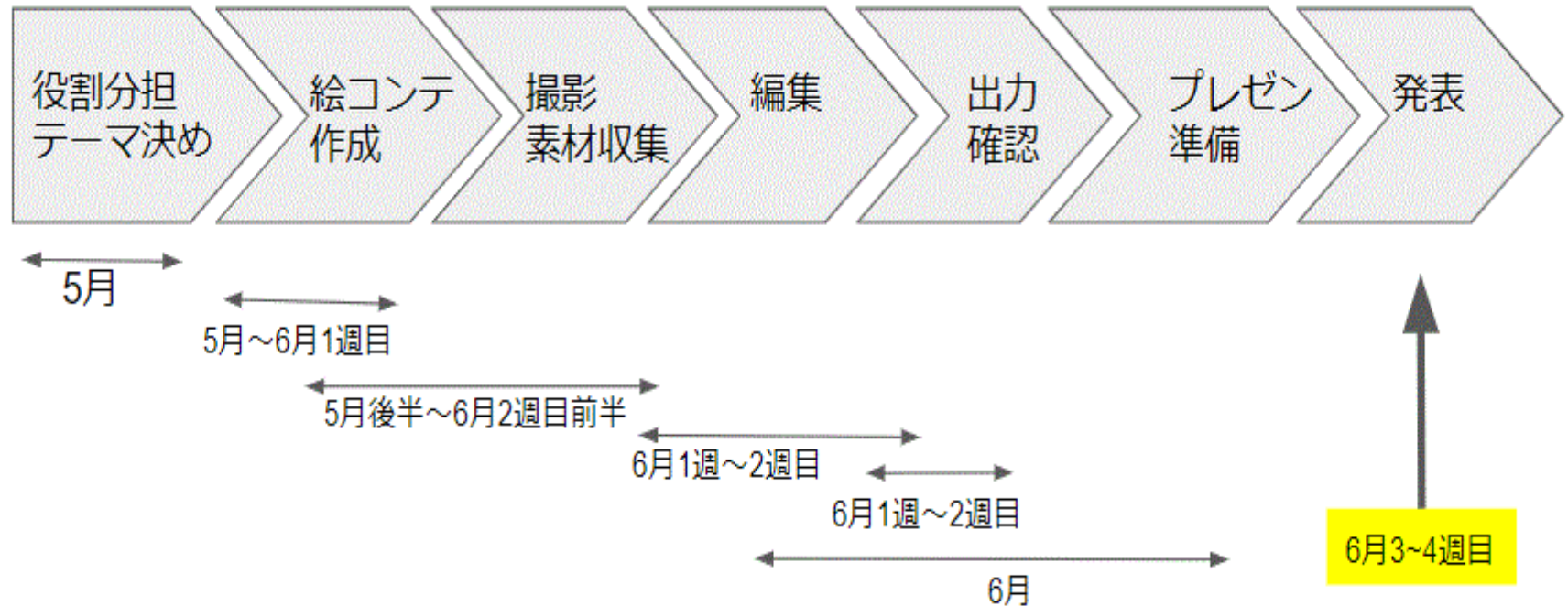
基本操作
マニュアル動画

字幕・音声参考
偽画像作り方
～メディアリテラシー授業～

基本操作
確認
～1人ひとつミニ動画作成～

実施概要

授業の展開



実施概要

授業の展開

テーマ決め

2018年

- ① ICTによるコミュニケーションの失敗例
 - ② 10年後の私たちの社会
- ①、②のどちらか好きなテーマ

2019年

10種(情報格差、ネット依存...)の用語解説
班ごとに異なる用語を担当

実施概要

授業の展開

役割分担

2018年

5～6人1班

ディレクター、キャスト、カメラ、編集、素材、発表

2019年

3～4人1班

ディレクター、キャスト・素材、カメラ、編集

実施概要

授業の展開

絵コンテ シート

撮影ではいきなり撮り始めるのではなく
絵コンテ（話の流れ、簡単なコマ割り、時間配分
撮り方（アップにするのか、どこで撮るのか等））
を記入してからはじめた

実施概要

授業の展開

発表

動画の完成以外に、
スライド資料(フォーマットはGoogleClassroomで
こちらから配布)を作成し、
動画の上映と工夫した点などの解説も行った。

実施概要

授業の展開

評価

ふりかえりシート：個人、所属班の中での貢献度

他班の鑑賞による相互評価 記入

評価基準：貢献度、完成作品が要件(3分以内、

テーマと一致しているか、適切な解説が入っているか、クレジットが入っているか)を満たしているか、ふりかえり

シートの記入具合、班外から評判がよかった場合加点

評価法方法：教員と自己によるポートフォリオ評価

作品、班外の人によるパフォーマンス評価

課題と今後の展望

<成果>

- LINEの使い方や、ICT機器について考えられた
- 協働作業ならではのプロジェクトの進め方に対する反省が見られた
- 動画のしくみ(特にレイヤーの概念)について理解できた

課題と今後の展望

<今後の課題>

- 動画作成の必要性
(技術面では不要、科学的理解のためには別の実習でもよい気がする)
- プロジェクトの進捗状況の管理と班内での協力推進のしくみ改善(どの発表でもPBLに関してはこの反省を言っている気がする)
- 情報モラルの用語や事象を身近に感じすぎてつらくなる生徒がいた、テーマ設定を精査する必要性

課題と今後の展望

<今後の予定>

授業時数や授業時間外の負担を考慮したい

プロジェクトの進捗管理をよりシステム化したい

著作権やその他の権利の扱いをより適切に行えるようにしたい

評価方法の改善検討

参考文献

文部科学省,学習指導要領解説 情報編

(平成22年1月)

AviUtlのお部屋

<http://spring-fragrance.mints.ne.jp/aviutl/> (2013.7.15最終更新)

無料【画像加工サイト】もじまる

<http://www.mojimaru.com/>

(2019.6.16閲覧)

ご清聴ありがとうございました